

がんばる農家プラン  
～中山間地で法人化！  
水稲規模拡大プラン～

作成年月 平成26年度5月

作成者 農事組合法人ファーム白谷

## 農事組合法人ファーム白谷がんばる農家プラン

作成者 農事組合法人ファーム白谷  
理事 小竹 等  
事業主体 農事組合法人ファーム白谷

### 1. はじめに（プラン作成に至った経緯）

農事組合法人ファーム白谷は、中山間地である日南町の南に位置し峠を越えれば、岡山県新見市神郷町に接している 地区内にあります。農地の標高は 300m から高い所で 500m の場所もあります。また棚状水田が続き、日照不足、排水不良、鳥獣被害等、農業を営むには厳しい環境にあります。

集落における営農の形態は、兼業による水稲経営がほとんどですが、先祖代々から引き継がれているこの農地を、たやすく耕作放棄地にする訳にはいかず、高齢社会の中にあっても守り抜かねばいけないと集落の誰もが考えています。

幸いに先人の人達が、中心となるメンバー 7 名で昭和 53 年に共同作業所を持つことで農家の負担を軽くし、収益が上がるようにしてくれていましたが、農業従事者の高齢化や過疎化が進むにつれて農作業が大変になってきました。先人達が立ち上げた共同作業所のメンバーも全員が農作業従事をするわけではなく、作業形態を工夫するなどメンバーで知恵を出し合う機会が多くなってきたところ、集落全体を組織化して営農していくことが話にあがりました。平成 25 年の夏から白谷集落の農家と共同作業所の農家を交えて勉強会を開催するなどしてきました。その結果、集落全員とはならなかったものの、平成 26 年 1 月に共同作業所のメンバーに新たに 3 名の集落内農家と 1 名の集落外の青年が加わる形で法人化して営農を再スタートすることになりました。

法人には農作業をする農業用機械がなく、当面は共同作業所から機械を借りて作業をすることとなりますが、共同作業所の機械は老朽化や小型であることで効率が悪く、今後は機械を大型化して作業効率の向上を図っていく計画をしています。また、規模拡大も進めながら、尚且つ耕作放棄地の復田にも取り組みことにしています。

以上のことを確実に進めていくため、仲間作りとして今回法人に加入しなかった集落の方にも引き続き扉をオープンにして仲間に加わってもらえるように体制をつくっていくつもりです。

しかし、法人としてスタートしたばかりで当面はスムーズにいかないこともあると思われ、思い切った取組み目標も掲げることが出来ませんが、事業等を活用しながら、生産体制を整備することで経営を安定させ、集落の人が安心して仲間に入ることができるよう努力していきたいと考えています。

○ファーム白谷の経営概要（平成26年4月末現在）

資本金	550千円
法人設立	平成26年1月
事業年度	2月1日から1月31日まで
構成員数	11戸
経営面積	963a 借地
作業受託面積	耕耘140a、代掻き（荒代、植代）140a 田植え340a、収穫1,300a、乾燥調整1,300a
主要栽培作物	水稲、ソバ

○農業施設・機械所有状況（平成26年4月現在）

機械・施設名	台数	能力・年式等	導入年度※1	備考
コンバイン	1	4条刈	H23	

※下表は共同作業所よりリースし、5年後に全ての機械を譲受予定。

機械・施設名	台数	能力・年式等	導入年度※1	備考
コンバイン	1	4条刈	H12	
乾燥機	7	18×2, 22,24,35,36,40石	H7~H24	
トラクター	1	23ps	H12	
トラクター	1	28ps	H20	
田植え機	2	6条植	H25	
糶摺り機	1	5インチ	H24	
フォークリフト	1		H24	
作業場	1	270m <sup>2</sup>		作業所よりリース

※1 表中の機械は全て共同作業所より有償譲受するものであり、「導入年度」については共同作業所が導入した年度を参考表示した。

2. 生産経営の現状・課題

1) 生産経営の現状 (平成 26 年度 (見込み))

《経営規模》

自作地	借入地	合計
0 a	963 a	963 a

《作目》

水稲	ソバ
800 a	163 a

《作業受託》

耕耘	代掻き	田植え	稲刈り	乾燥調整
140a	140a	340 a	1,300 a	1,300 a

《主な労働力》

労働力	続柄	想定する労働日数	備考
小竹等	理事	150 日	経営管理、水稲、ソバ、作業受託
	構成員	90 日	水稲、ソバ、作業受託
	構成員	90 日	水稲、ソバ、作業受託
	構成員	90 日	水稲、ソバ、作業受託
	構成員	60 日	水稲、ソバ、作業受託、会計
	構成員	60 日	水稲、ソバ、作業受託
	構成員	60 日	水稲、ソバ、作業受託
	構成員	60 日	水稲、ソバ、作業受託
	構成員	60 日	水稲、ソバ、作業受託
	構成員	60 日	水稲、ソバ、作業受託

《年間作業スケジュール》

品目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水稲	播種・育苗			防除				刈取り				
	耕耘・代かき			田植え				乾燥・調整				
ソバ	鶏糞施用 額縁明渠						播種		刈取り			
その他	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <span>← 決算総会</span> <span>定例会 (毎月 1 回)</span> <span>→</span> </div>											

## 2) 営農における課題等

### ① 籾乾燥機的能力不足

私達の法人は現在、約 21ha の水稲作付と収穫・乾燥調整の受託を行っています。籾乾燥機も共同作業所のメンバーで少しずつ整備しながら、小～中規模の籾乾燥機を 7 台整備していますが、能力的には不足し、今後の規模拡大に対応できなくなります。一番の問題は、現在の籾乾燥機的能力では、2 台のコンバインをフル活用出来ないことです。籾乾燥機が空かないために、やむを得ず夕方刈った籾を夜中まで乾燥せず収穫袋に入れたままにした時もありました。そうするとムレ等で品質が落ちる可能性があります。作業が遅れているためにどうしようもありませんでした。

特に当面は受託も多く、依頼者の籾の品質を落とすわけにはいきません。そのようなことがないように、1 度に処理できる量を増やしていくことが必要です。

### ② トラクター作業における春作業の遅れ

法人化し、水稲作付面積の規模拡大を計画しているため現状の 2 台の能力では作業を予定どおり進めることができません。間に合わない作業については、個人農家等にトラクターを借りたり、作業委託するなどして凌いでいくのも一つの手法ですが、個人農家の都合に合わせる必要があるのが不便です。

また、法人化による農地集積を行ったにも関わらず、能力の小さいトラクターで作業を続けることは法人化のメリットを活かす事ができず非効率となります。

### ③ 水稲反収の向上

白谷集落の水稲反収は約 420kg/10a と低い水準です。これまで個々の管理で、倒伏による作業性低下や品質低下を恐れての控えめな施肥体系をとってきたことによると考えられます。

法人化を機に、収量性を改善し、少しでも早く経営を安定させるようにする必要があります。

### ④ 法人内の運営体制

法人化して間もない組織で、これまで任意組織として運営してきた共同作業所の時と構成メンバーが変わり、作業体制などで不慣れな点が出てくると思われます。

### 3. 生産経営等の改善内容（目標）と期待される効果

#### 1) 改善内容と目標値

##### ① 籾乾燥機能力不足

乾燥調整については、乾燥機能力アップを行うことで作業を間に合わせる事が出来るようになります。具体的には、現在所有している 22 石乾燥機を 40 石に能力アップします。

##### ② トラクター作業における春作業の遅れ

トラクター作業については、更に 34ps のトラクターを導入することで作業を間に合わせる事ができます。

##### ③ 水稲反収の向上

まずは法人の構成員で、水稲の生育状況をよく観察するところから始めます。品種や施肥体系は何種類かありますが、普及所等に指導を受けながら、ほ場毎に記録をつけるなどをして、ほ場のクセを掴み反収向上を目指します。

##### ④ 法人内の運営体制

毎月 1 回の運営会議として寄り合う機会を設けて話し合いを行います。忙しい時でも集まれる人間だけでも集まる努力をします。また、役割分担もしているため、担当毎で話し合う機会も作っていきます。

#### <目標>

項目	現状 (H25 年)	(H26 年)	(H27 年)	(H28 年)	目標 (H29)
水稲作付面積の 規模拡大(a)	—	800	950	1,100	1,200
水稲反収の向上 (kg/10a)	—	420	430	450	460
運営会議	—	月 1 回以上	月 1 回以上	月 1 回以上	月 1 回以上

## 2) 期待される効果

### ① 粃乾燥機の能力アップ

- ・収穫調整作業がスムーズになります。
- ・所有している2台のコンバイン能力をフルに活かします。

### ② トラクター34psの導入

- ・規模拡大、農地集積により増える作業に対して遅れをとることなく作業をすることができます。
- ・3台にすることで、オペレーター人数が増え、オペレーターを育成することができます。
- ・耕作放棄地を復田（約1ha）して、ソバの作付けを計画しており、トラクターの能力アップをすることで、復田作業をすることができるようになります。（H28年作付後に復田し、H29年よりソバを作付予定）

### ③ 水稻の反収向上

- ・反収向上によりコメ売上高が向上し、経営安定に結びつきます。
- ・これまで他人のものであった水田を含め、生育をよく観察することで、誰もがコメづくりのコツを養うことができ、構成員の意欲も向上することを期待しています。

### ④ 月1回以上の運営会議

- ・顔を合わせて話をするすることで、作業効率を上げることができます。

## 4. 目標達成に向けた取り組み（年次別の行動計画）

項目	内容	H26	H27	H28	H29
規模拡大	集落内外の作付面積及び受託面積の増	○	→	→	→
運営会議の開催	定期的（月1回）に作業体制等のことについて話し合いを行う。	○	→	→	→
粃乾燥機40石の導入	がんばる農家プラン事業で導入	◎			
トラクター34ps導入	がんばる農家プラン事業で導入				◎

※ ◎は県、町の支援が必要なもの（がんばる農家プラン事業）

5. 機械・作物の年次別計画

年度	H26	H27	H28	H29
機械・施設 導入計画	籾乾燥機の導入 (1,740千円)	—	トラクター 34psの導入 (5,987千円)	—
対象作物の 生産計画	水稻 800 a ソバ 163a 作業受託 耕耘 140 a 代掻き 140 a 田植え 340 a 刈取り 1,300a 籾乾燥 1,300a	水稻 950 a ソバ 170 a 作業受託 耕耘 150 a 代掻き 150 a 田植え 300 a 刈取り 1,200a 籾乾燥 1,200a	水稻 1,100 a ソバ 170 a 作業受託 耕耘 170 a 代掻き 170 a 田植え 270 a 刈取り 1,200a 籾乾燥 1,200a	水稻 1,200 a ソバ 270 a 作業受託 耕耘 200 a 代掻き 200 a 田植え 250 a 刈取り 1,000a 籾乾燥 1,000a

6. 支援事業の内容

(単位：円)

内容	事業費				負担区分
	H26	H27	H28	H29	
籾乾燥機 (40石)	1,740,000				県 1/3
トラクター (34ps)			5,987,000		町 1/6 本人 1/2

補助残は自己資金により対応

7. 添付資料

- ほ場図
- 導入機械カタログ、見積書
- 特定高性能機械等の規模決定根拠
- 3年間の経営試算